



額縁明渠処理による 基盤整備田の湿害回避対策

基盤整備田では工事で下層土が踏み固められて排水不良になることがあります。そのため特産野菜のブロッコリーなど露地野菜の栽培は、秋季の降雨等の影響により湿害や計画的な作付けができないなどの問題が発生しています。

そこで、圃場周辺に額縁状にうね溝（明渠）を設けて、排水ポンプで強制的に排水し湿害を回避する「額縁明渠処理」の効果を検討しました。



降雨時のポンプによる排水の様子

無処理区では降雨ごとに畦間に水が溜まったため、定植直後から生育不良となり商品性のあるブロッコリーは収穫できませんでした。しかし、明渠処理区では降雨時に明渠に溜まった水をポンプで排出したため、生育不良を回避することができました。

また、栽植密度を畦幅70cmの1条植にして畦の数を増やすと、畦幅130cmの2条植より作土が乾きやすくなり、ブロッコリーの収量、品質ともに優れました。この処理では明渠の大きさは幅、深さとも25cm以上、排水ポンプは毎分500リットル以上の能力が必要です。



明渠処理



無処理



明渠1条植 明渠2条植 無処理

ブロッコリーの生育状況と収穫時の状況

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 生産環境担当

TEL (088) 674-1660 FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>